

『立命館言語文化研究』執筆要領

本文書は、立命館大学国際言語文化研究所紀要『立命館言語文化研究』の執筆についてまとめたものである。投稿については、別途『立命館言語文化研究』執筆・投稿規定を参照すること。

(原稿分量)

1. 原稿の分量は、和文は 20,000 字程度、欧文は 7,000 語程度、その他の言語は和文に相当する分量とし、いずれも図表を含めた時の上限とする。

(要約・キーワード) ※投稿原稿のみ、特集原稿はこのとおりではない。

2. 原稿には、本文のほかに、要約およびキーワード(5点以内)を添付する。

和文原稿には、欧文 150 語以内の要約と和文キーワードを、欧文原稿には、和文 430 字以内の要約と欧文キーワードを、その他の言語には、和文 430 字以内の要約と執筆言語のキーワードを、本文の前に記載すること。キーワードは要約の後に記載すること。

(書式)

3. 書式については以下の通り定める。

- 1 記載の順は以下の通りとする。

(1) 論文名(欧文書名の併記を含む)

(2) 執筆者名

執筆者名の表記については以下の通りとする。

和文：姓と名のいずれかあるいは双方が一字の場合はスペースを挿入する。その他の場合は姓、名が判別しやすくなるよう、必要があればスペースを挿入する。

中文：姓、名、名にスペースは入れない。等間隔で表記する。

朝鮮語：姓、名、名にスペースを挿入する。

欧文：各言語での表記による。但し、ファミリーネームは大文字のブロック体とする。

※カタカナ等で姓名を表記している場合は日本語に準ずる。

(3) 要約(投稿原稿のみ)

(4) キーワード(5つまで、投稿原稿のみ)

(5) 論文(上記に続けて記載)

※論文の表記方法については後述。

(6) 注、引用文献(必ず文末にまとめて記載すること)

2 章・節

章・節等の区別は以下の通りとする。

1., 1. 1, 1. 1. 1

章・節等に区分するときはアラビア数字を用いる。

数字の間には「.」を入れる。最後の数字の後は全角スペースとする。

章はセンターリングする。節以下の展開は左寄せとする。

「はじめに」「おわりに」も一般的には章番号を入れる。

段落の始まりはインデントする。

3 表記

(1) 文献名

本文中の和文文献名については、書名は『』、論文名は「」、雑誌名は『』を用いる。外国語文献で訳名を付す場合は、後に（）内にいれて表記する。本文中の欧文文献名については、書名、論文名は“”にいれ、雑誌名はイタリックとする。

(2) 数字等

年号は、西暦で記入し、元号の記載が必要な場合は、1925（昭和元）年のように表記する。

四桁以上の数字には、半角のカンマを入れて表記する。

(3) 図表等

図・表は、図 1, 表 1, Figure1, Table1 のように通し番号を付け、図題は図下部に、表題は表上部に表記する。

図・写真の原稿は明瞭なものを執筆者の責任で作成し、提出すること。

図表等のコピーライトについては、原則として執筆者の責任において得るものとする。困難な場合は、その旨を事務局まで伝えること。

4 注

(1) 和文

本文中の注は、その箇所の右肩に、¹⁾、²⁾ のように通し番号を付け（句読点は通し番号の外に入れる）、原稿末尾に一括する。

(2) 欧文

本文中の注は、その箇所の右肩に「¹⁾」、「²⁾」のように通し番号を付け（句読点は通し番号の内に入れる）、原稿末尾に一括する。

5 引用

本文中の引用文献は「」で括り、出典を（）内に表記する。

長文の引用は、本文のあと1行空けるとともに2字分字下げする。引用の後も1行空ける。フォントは一段小さくする。

6 引証資料リスト (the list of works cited)

論文中での記載事項・記載順等の表記を統一することとする。

以下、参考までに表記の例を示す。

(1) 和文

著者、(出版年) 論題『雑誌名』, 出版社・発行期間等, 巻号, 掲載ページ等
<表記例>

崎山政毅 (2011). 論題一副題『雑誌名』, 国際言語文化研究所 22(3), 3-44

(2) 欧文 (コンマ, ピリオド等記号の後には半角スペースを入れること)

Family name, First name. Title: subtitle. Place: Publisher, year., pp

7 投稿及び編集に関わる詳細は、別途「立命館言語文化研究 編集規定」にて定めている。

8 その他不明な点は、国際言語文化研究所まで問い合わせること。